比企郡小川町の石造物巡り

大聖寺　法華経供養塔・板碑

だいしょうじ

中央前方の中腹に大聖寺がある

火の用心

大聖寺

所在地　比企郡小川町大字下里

大聖寺は、天台宗に属し暦応三年（一三四〇）に、この地域の土豪と思われる貞義が希融法印を招請して開創したと伝えられ、本尊は如意輪観音である。

境内にある法華院には、国指定重要文化財の石造法華供養塔（六角石塔婆）が保存されている。六枚の緑泥片岩を組み合せたもので、塔の高さは一・三六メートルあり、康永三年（一三四四）の造立ときざまれている。

大聖寺は、「下里観音」あるいは、「子宵観音」という名前で、一般に親しまれており、四月二十日、十月二十日の縁日には、たくさんの参詣者が訪れる。また江戸時代末期頃から戦前までは、数百組の観音講（女人講）があり、にぎわいをみせたそうである。

本堂奥の高台にある観音堂は、江戸末期の建物で天井の絵は、小川町中爪の細井竹翁の作と伝えられ、当時のこの付近の文化をしのばせるものである。

昭和五十九年三月

埼玉県
小川町

山門　/大聖寺は下里観音とも呼ばれる

「武蔵国第九番札所　十三佛霊場」とある

ここが法華経供養塔並びに板碑が保管されている法華院（保存庫）

康永3年（1344年）造立の石造法華経供養塔と板碑が重要文化財に指定されている

国指定重要文化財

石造法華経供養塔・板碑

埼玉県比企郡小川町大字下里字観音山一八五七

この供養塔は、もと本堂裏の斜面中腹のわずかな平坦地にありましたが、風化が進んできたので、昭和五十四年に保存庫（法華院）を建設して移設しました。

供養塔は、台座上に長方形の六枚の緑泥片岩（下里石）を六角筒形に組み立て、その上に六角と八角形の大小二枚の笠石を乗せています。本来は笠石の上に宝珠が乗せられていたと考えられますが、現在は欠損しています。

六角の各面には、蓮台上にキリーク（阿弥陀）の種子と、「開山希融」をはじめ五十一名の名前が刻まれています。　正面には「開山希融　平貞義（源）　祐仙　奉読誦法華経一千部供養　……」とあり、その他の面には、「……　康永三年甲申（一三四四）三月十七日　一結之諸衆　敬白」の銘文が読みとれます。

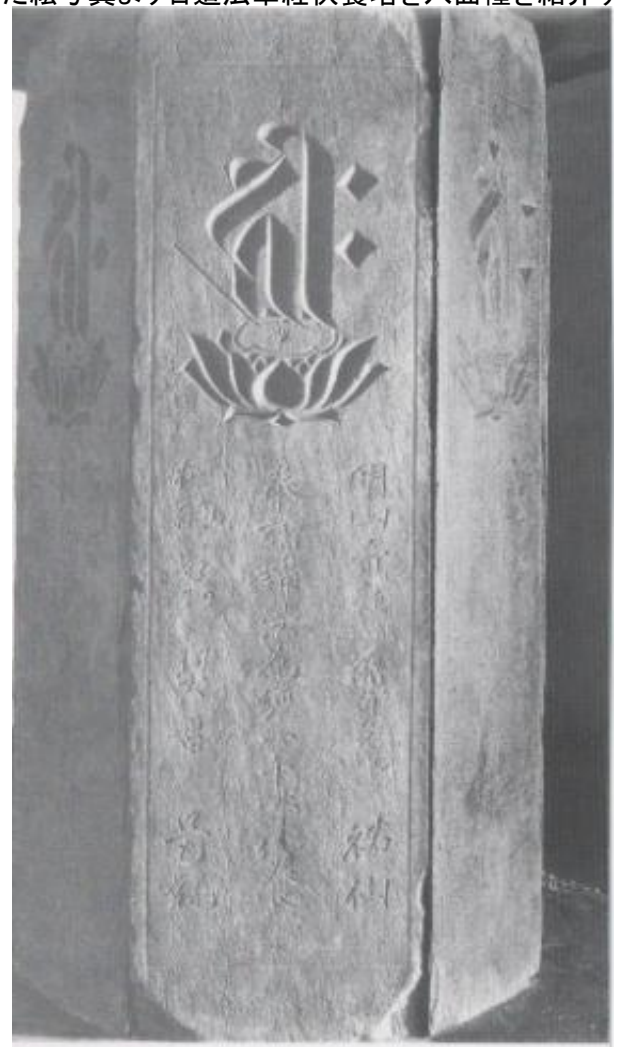
昭和五十四年に追加指定された板碑によると、この六角塔婆の供養塔は、鎌倉幕府滅亡に際し亡くなった主君・北陸使君禅儀の十三回忌に当り、大聖寺の開山希融や開基の平貞義（源）らが法華経一千部を読誦し、供養した際に建てたと考えられます。銘文中の「平貞義」の平については源を改刻した可能性が高いようです。

平成三年三月

埼玉県教育委員会
小川町教育委員会
大聖寺

見学はさせていただいたが撮影禁止のため、お寺よりいただいた絵写真より石造法華経供養塔を六面幢を紹介する

国指定重要文化財「石造六面供養塔」
埼玉県比企郡小川町下里大聖寺
鈴木道也氏　撮影



正面

開山希融　平(朝)貞義　祐仙
奉讀誦法花經一千部供養
檀那寂阿　契昌　　是観

同じく、お寺よりいただいたパンフレットより

国指定重要文化財　六面塔について

一　当山境内にある石造り六面塔は、わが国最古の供養塔であり、大正二年、国宝に指定され新たに昭和二十五年八月二十九日に、重要文化財として国から指定された。六面塔は、厳密にいえば「石造六角法華経千部供養塔」ともいえる石塔で、長い年月、雨露をしのぐにすべなく、傷みもひどくなってきたので、保存のため昭和五十四年、五十五年度、国、県、町の三者の補助金に依り法華院を創建し、永久保存をすることにした。

六面塔は、元は境内山腹をけずり、わずかな平地を造成して建立してあったことを付記しておく。

二　六面塔は、当地から産出される下里石（緑泥片岩）で造られている。六枚の偏平石を六角の筒型に組合せ上に八角形と六角形の大小二枚の笠石が載せられてある。

塔の高さは一、三六メートル、六枚の各面の幅は〇、三二メートル、各面に阿弥陀如来の種子を蓮台に乗せて、次のような文字が刻されている。

正面は、

開山希融　平貞義（源）　祐仙

種子・蓮台　奉読誦法花経一千部供養

檀那寂阿　契　昌　是観

向って左から三番目の面には、永範　□□　宗吉

康永三年甲申三月十七日　一結之諸衆敬白　とある。他の面には、それぞれ十人ほどの人名が刻字されている。

三　六面塔の後方に建てられている供養碑には、

右迎所天聖霊十三廻之御忌□旧僕衆庶無二心之発露共合微力□互致造立以之奉

阿字、蓮台　始北陸使君禅儀　所志過去御尊霊□□□

増法雲之位　各々添覚月之光功徳之□□

于六趣　敬白

康永三年甲申十月十八日一結衆等敬白

とある。□は判読不明。

〒355－0323
埼玉県比企郡小川町下里1857
石青山大聖寺
下里観音
電話　0493－72－5027

これは江戸時代末期建立の観音堂

大梅寺　二連板石塔婆
だいばいじ

ここは大梅寺/右手に説明板が立っている

大梅寺
所在地　比企郡小川町大字大塚
大梅寺は、勧進録によれば仁治三年（一二四二）に、土地の豪族猿尾氏が都幾川村の霊山院の栄朝禅師を招請し、創建したと伝えられている。
鎌倉幕府滅亡のおり、将軍守邦親王が当地に下向し病没したので、大梅寺の円了長老が引導し葬ったという言伝えが残っている。
永禄四年（一五六一）の兵火で寺院が焼失したが、寛永の頃（一六二四～一六四四）に、越生町の龍穏寺第十六世鶴峰繁孫大和尚が中興され、この時より曹洞宗となる。その後、更に焼失し天明五年（一七八五）に、再建され現在に及んでいる。
本堂前の記念碑の裏手にある二連塔婆は、暦応四年（一三四一）に建てられたものであり、貴重なものである。
また記念碑の左手には、江戸時代の俳人太魯の墓がある。
昭和五十九年三月
埼玉県
小川町

前方が本堂

左手を見ると二連板石塔婆があった

大梅寺（たいばいじ）二連板石塔婆

大字大塚（おおつか）

一枚の石材に板碑二基分を彫り出した双式板碑（二連板石塔婆）は、埼玉県内に一二基確認されており、そのうち八基が小川町に所在しています。一般的に頂部は水平に成形されますが、この板碑は二つの山形になっているのが特徴で、こうした形態は県内に二基しか確認されていません。

中央に暦応四年（一三四一）の銘があり、それぞれ本尊の阿弥陀如来種子（しゅじ）（キリーク）、蓮台の下に、光明真言の梵字（ぼんじ）（サンスクリット文字。オン・アボキャ・ベイロシャノウ・マカボダラ・マニ・ハンドマ・ジンバラ・ハラバリタヤ・ウンと読む）が四行ずつ刻まれています。真言を唱えると一切の罪業が除かれると説かれることから、追善供養の際によく唱えられました。この板碑も、逆修（ぎゃくしゅ）（生前に死後の冥福のために行う供養）や追善供養のために造立されたと考えられます。

なお、裏面は文政六年（一八二三）の三界万霊塔（全ての霊を供養するための塔）に転用されています。

［昭和五十三年三月十七日　町指定］

小川町教育委員会

二連板石塔婆/1341年造立

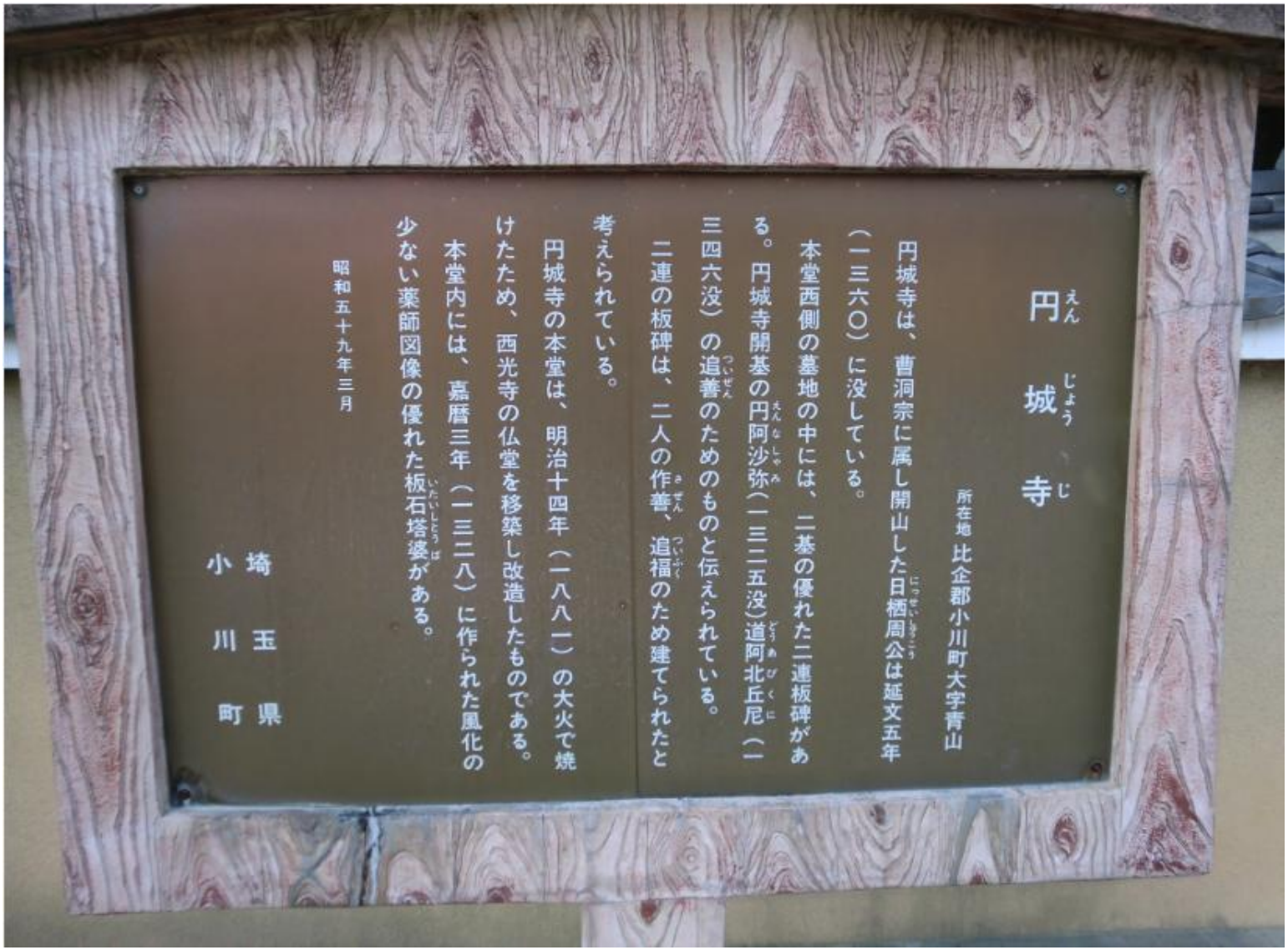
アップで見る

左真横から見たところ

これは裏面を見たところで、文政6年（1823年）に三界万霊塔に転用されたことを示す文字が刻まれている

円城寺　双式板碑（二連板石塔婆）
えんじょうじ

ここが円城寺/右手に説明板が立っている



円城寺

所在地　比企郡小川町大字青山

円城寺は、曹洞宗に属し開山した日栖周公は延文五年（一三六〇）に没している。

本堂西側の墓地の中には、二基の優れた二連板碑がある。円城寺開基の円阿沙弥（一三二五没）道阿北丘尼（一三四六没）の追善のためのものと伝えられている。

二連の板碑は、二人の作善、追福のため建てられたと考えられている。

円城寺の本堂は、明治十四年（一八八一）の大火で焼けたため、西光寺の仏堂を移築し改造したものである。

本堂内には、嘉暦三年（一三二八）に作られた風化の少ない薬師図像の優れた板石塔婆がある。

昭和五十九年三月

埼玉県
小川町

本堂

本堂左手を進むと二基の二連板石塔婆が立っている

右手が正中2年（1325年）銘、左手は延文6年（1361年）銘の二連板石塔婆

上記の二連板石塔婆の他に本堂内に嘉歴3年（1328年）銘の薬師如来坐像図像板碑があるという

延文6年（1361年）銘の二連板石塔婆

正中2年（1325年）銘の二連板石塔婆

左横から見たところ

円城寺　薬師如来図像　板碑　　（本堂内の小厨子の中に安置されているとのことで撮影できず/下記参考ホームページ参照）

http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/7460/saitama-ogawa-enjyouji.html#gazou

阿弥陀図像板石塔婆

中央が下里302-1に所在する阿弥陀図像板石塔婆/長享2年(1488年)造立

阿弥陀図像板石塔婆

大字下里

この板碑は、長享二年（一四八八）に建てられた月待供養結衆板石塔婆で、高さは一四一・〇センチメートルを測ります。

放射光を伴う阿弥陀如来の図像を本尊とし、その上部に天蓋（てんがい）と日月、下部に三具足（みつぐそく）（燭台（しょく）・香炉・花瓶（けびょう））と敷布を垂らした前机が描かれています。銘文には、日祐・妙秀などの法名、三郎二郎・彦次郎などの俗名、合わせて三十三人の結衆の名前が刻まれています。

月待供養は十五世紀中頃から東国社会で行われるようになった民間信仰の一つで、この板碑は二十三夜講に集まった人々が建てたと考えられます。小川町に残る中世後期の民間信仰板碑の代表例です。

［平成二十四年五月二日　町指定有形文化財］

小川町教育委員会

六地蔵供養塔

阿弥陀図像板石塔婆

西古里　地蔵菩薩板石塔婆

にしふるさと　　前方の登り坂を進むと地蔵菩薩板石塔婆があるという/左手は西古里集落センター

登り坂を進むとすぐ右手に薬師堂がある/中央やや左手の木々の中に白い説明板が立っている

説明板の後ろの木々の中に石造物が立っている様子が見てとれる

西古里地蔵菩薩板石塔婆

大字西古里（にしふるさと）

［平成8年4月19日　町指定有形文

正応3年（1290）の紀年銘がある図像板碑です。二重の枠線を施した表面上部には、左手に宝珠（ほうじゅ）、右手に錫杖（しゃくじょう）を持ち、足下には踏割蓮座（ふみわれれんざ）と雲（くも）を伴った来迎（らいごう）形の地蔵菩薩像を、幾分盛り上げるように刻んだ半肉彫の彫法を用いて表現しています。

こうした来迎図は、平安時代以降に浄土信仰が盛んになるにつれて、仏画として主に阿弥陀如来が描かれましたが、鎌倉時代に入ると広範な信仰を集めた地蔵菩薩の来迎図も描かれるようになり、この地蔵菩薩を刻んだ板碑もそうした影響のもとに、何らかの仏画を手本に造立されたものと思われます。

下半には4行にわたって願文が彫られており、30人からなる結衆者が今は亡き主君の霊を慰めるとともに、現世・来世における安穏を願って建てた供養塔であることが読み取れます。

法量　高180cm（残存部）
　　幅 60cm
　　厚 8cm

［拓

［願文］

右志者為主君并□□
聖霊同結衆三十人
正応三年庚寅才□　□
現当二世（福恵）□　□
乃至□□平等利益也

小川町教育委員会

中央が正応3年（1290年）銘の地蔵菩薩板石塔婆

アップで見る

大橋堂　阿弥陀三尊種子板石塔婆

左手の建物は大橋堂（子持地蔵）で、その右手に阿弥陀三尊種子板石塔婆と説明板が立っている

小川町指定文化財

昭和五三年三月一七日指定

大橋堂阿弥陀三尊種子板石塔婆

鎌倉時代

この板碑は、高さ二九三cm、上幅五七cm、下幅六七cmを測り、小川町で二番目の大きさで、当地方で産出する緑泥片岩でつくられています。

阿弥陀如来の種子を蓮台上に置き、その下の右に観音菩薩、左に勢至菩薩の種子を配して、さらにその下に四行の如心偈の一部が刻まれています。

若人欲了知　若し人ありて
三世一切佛　三世一切の佛を了知せんと欲せば
應當如是観　まさにかくの如くに観じて
心造諸如来　心に諸の如来を造るべし

（華厳経夜摩天宮菩薩説偈品）

鎌倉幕府滅亡の一ヶ月前、正慶二年（一三三三）四月十五日に建立されたことが銘文により解ります。

碑は大きく雄健である上、碑面の意匠、作風も優れ、偈文も格調高く、建立者の敬虔な祈りと深い信仰がしのばれます。

平成十三年五月二十六日

小川町教育委員会

慈眼寺

正慶2年(1333年)造立の阿弥陀三尊種子板石塔婆

この板石塔婆は前方に、やや「く」の字に曲がっている

右真横から見たところ

題目板石塔婆

正面は下里1568-1に所在する題目板石塔婆

題目板石塔婆

大字下里

この板碑は、天正八年（一五八〇）に建てられた題目板石塔婆で、高さは二二〇・〇センチメートルを測ります。

日蓮宗信仰を表す「南無妙法蓮華経」の七字題目を中央の蓮座上に彫り、上部に日月を配します。銘文から、主君である蓮忠や父母の追善供養のため法華経一千部の真読を成就した際に建てられたことがわかります。

終末期の板碑としては異例の大きさで、日蓮宗に深く帰依した松山城主上田氏と下里地域の家臣との関係を示すと考えられる貴重なものです。

【平成二十四年五月二日　町指定有形文化財】

小川町教育委員会

南日板石塔婆

天正8年(1580年)造立の題目板石塔婆

背面を見たところ

参考ホームページ

大聖寺　法華経供養塔・板碑

http://www.town.ogawa.saitama.jp/lifework/bunkazai/rokumentou.html

http://kokoccyo.exblog.jp/14049374/

http://mahorobakikou.ldblog.jp/archives/52057622.html

http://blog.goo.ne.jp/hanako1033/e/078309173dfd86e0ff6a09036f72f761

http://www.smiyabi.com/sabu1300/sabu1303/sub13htm.html

http://www5e.biglobe.ne.jp/~truffe/itabi-musashi.htm

大梅寺　二連板石塔婆

http://blog.goo.ne.jp/runhide_2005/e/89fefc1bdc7bf4b3e69964eaee0be335

http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/7460/saitama-ogawa-taibaiji.html

円城寺　双式板碑

http://www.geocities.jp/kawai24jp/saitama-ogawa-enjyouji.html

http://akisinogaw.exblog.jp/14296217/

阿弥陀図像板石塔婆

http://akisinogaw.exblog.jp/14405863/

西古里地蔵菩薩板石塔婆

http://akisinogaw.exblog.jp/m2011-01-01/

大橋堂阿弥陀三尊種子板石塔婆

http://www.geocities.jp/kawai24jp/saitama-ogawa-oohasidou.html

その他

http://www.asahi-net.or.jp/~ab9t-ymh/annai/itabi10/itabi55.html

http://www7b.biglobe.ne.jp/~boso/ohakanorekishi_12.html